

第4 統合効果を発揮するための取組み

1. 新大学の教育研究組織

新大学では、両大学の同種の分野を集約することを基本とした上で、新たに情報学研究科を設置するとともに、農学部・研究科、獣医学部・研究科、看護学部・研究科を独立（1学域 11学部 15研究科）
 新大学の規模は現状と同規模（学生数 約16,000人 教員数 約1,400人。学部学生入学定員数では国公立大学で全国第3位）
 →これまで以上に多様な人材によるシナジー効果が期待される

- 全学の基幹教育（共通教育）を企画運営するため基幹教育機構を設置。基幹教育においては全学部生を対象として「教養」、「専門的能力」、「情報収集・分析力」、「行動力」、「自己表現力」などの能力を身につけて社会の中で発揮できる人間を養成
- 関西の主要国立大学に匹敵する公立の総合大学として、学部・研究科の枠を超えた異分野融合研究・教育を実践
- 戦略領域などニーズに対応した研究を企業・国・自治体等と連携して推進するための拠点を設置。研究領域は、臨機応変に再編
- 教員組織は、教育研究組織とは別に、研究分野をベースに設置
- 新領域の学部・研究科は、引き続き選択と集中により検討



(1) 新設する研究科「情報学研究科」

設置趣旨：情報を自在に操る「知」のプロフェッショナルの育成

Society 5.0 を見据え、人工知能・データ分析を軸としたさまざまな学問領域との有機的融合により、情報および知識を自由に操ることで新たな「知」を創造し、グローバルな社会課題を解決できる人材の育成を行うため、全学における情報学に関する資源を集約し、学際的・分野横断的な教育研究を推進する。

情報学研究科の概要と特色

○ ミッション

- 学問体系としての情報学の深化
- 情報を基盤とする学際的・分野横断的研究の推進
- Society 5.0 時代のデータ活用人材の育成
- AI を駆使したデータアナリスト人材の育成
- IoT を含む知的プラットフォームアーキテクトの育成
- 優れた応用力を有する情報学に関する専門家の育成

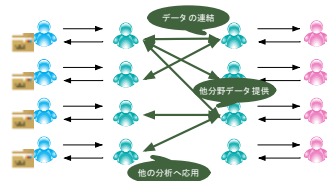
○ 特徴

- データドリブン型課題解決（データの可視化による課題解決）に必要な三要素を網羅的に修得
 - 情報の取得・収集
 - データ分析
 - 判断および制御
- データ分析×プラットフォーム×応用がすべて修得可能な国内有数の教育研究拠点



○ 多方面にわたる連携

- データを「つなぎ」「広げる」ことにより複数の関連研究科との連携を実現
- “スマートユニバーシティ”構想への参画
- 府・市に対する「都市シンクタンク機能」としてのデータマネジメントセンターを通じたデータによる産・学・官連携
- 海外連携大学院とのダブルディグリー制度



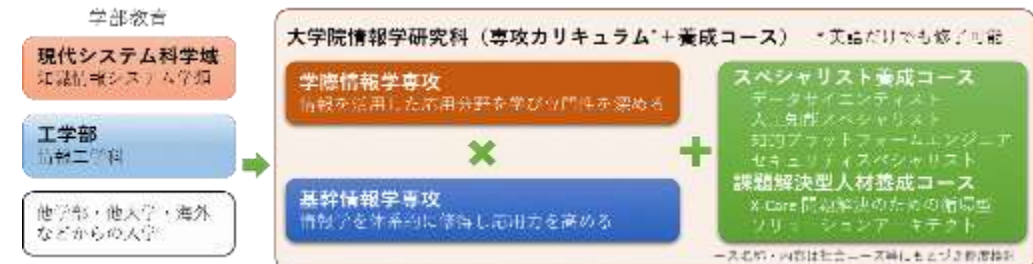
多彩な教育プログラムの提供

○ 専攻カリキュラム

- 2方向の学修パスを設定
 - **基礎→応用**：情報学を体系的に修得した学生（工学部情報工学科の卒業生を想定）に対し、さらに専門性を深化させるとともに、応用分野への適用事例を体験的に修得することで高い応用力を養う
 - **応用→基礎**：情報を活用した応用分野を学修した学生（現代システム科学域知識情報システム学類の卒業生を想定）に対し、より実践的な応用分野への展開を学ぶとともに、その要素技術についてより深い専門性を身につける
- 実学・グローバル志向科目の提供
 - 両専攻ともに英語だけで修得可能とし、海外からの留学生を受け入れるなどグローバル化を推進
 - 英語演習などによるグローバルコミュニケーション能力の向上
 - インターンシップなどを通じた実学志向演習の提供

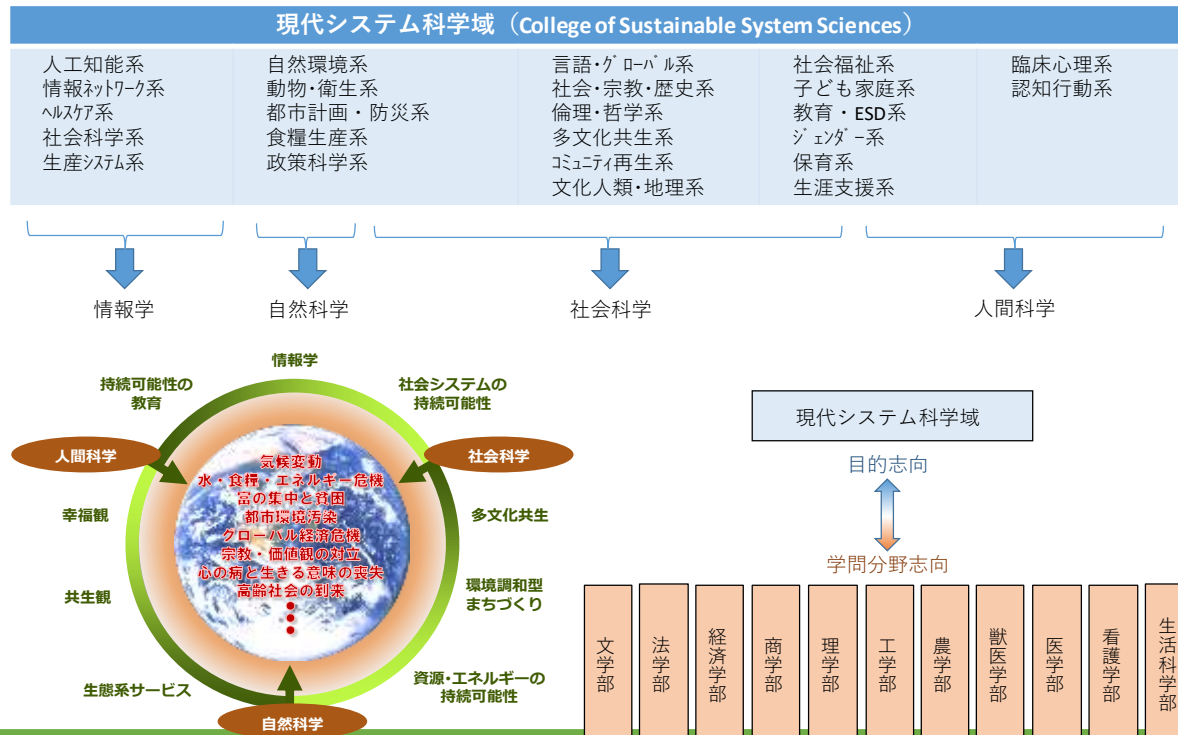
○ 人材養成コース

- 専攻カリキュラムとは別に人材養成コースを設定、副専攻として履修可能
- 専攻カリキュラム＋人材養成コースの修了により学問研究の涵養と人材像の明確化を両立
- 即戦力として期待される「スペシャリスト養成コース」と、卓越した課題解決能力を身につける「課題解決型人材養成コース」を設定
- 養成コースは時代の要請と社会ニーズにもとづき柔軟に設定



(2) 新設する学域「現代システム科学域」(新大学で唯一設置する「学域」)

- ◆ **SDGsの達成** (持続可能な社会の構築) というオブジェクト指向型の教育 (「課題の横断的達成型教育」) を実践
- ◆ SDGsを実現できる人間を育成するため異分野融合や多様な学びの実践及び他学部の**SDGs導入に当たって組織的に関与**
- ◆ **新大学の入試改革を先導**し、学域単位入試や様々な特別選抜を行い、多様で特色のある学生を受け入れ
- ◆ 意欲ある**学生が入学後も文系・理系の壁を越えて柔軟に学べる**ようなシステム構築・仕組みづくり
- ◆ **海外インターンシップや資格取得コースの選択が可能。**
- ◆ 伝統的な学問領域を専門的に学ぶ学部 비해、**より多様かつ横断的な領域を融合的に学ぶ**
- ◆ 情報学、自然科学、社会科学、人間科学を融合した領域での教育研究を目指す



(3) 新大学の教育研究組織の主な特徴

新大学では、基幹教育機構の設置のほか、各学部・研究科では統合によるシナジー効果を発揮し、特徴ある教育を実施する。

分類	名称	教育の特徴など
新設	基幹教育機構	英語教育の強化（卒業までにCEFR B1 * 以上を目指す）、数理・データサイエンス基礎を全学に提供、初年次に基幹ゼミナールで能動的学習姿勢を習得。大学院において研究公正、キャリアデザイン、プレFDなど共通教育を提供
	情報学研究科	情報学研究科は新大学で新設。全学の情報系を大学院で集約、情報に関する卓越した知のプロフェッショナル及び教育者を養成。情報人材の育成を促進
学域	現代システム科学域	SDGsを実現できる人間を育成するため異分野融合、多様な学びの実践及び他学部のSDGs導入に当たっての組織的関与。新大学の入試改革の先導。海外インターンシップや資格取得コースを選択
独立	農学部・研究科	農学部は新大学で独立。生物とそれをとりまく環境を分子から生態系に至る多様な視点でとらえ、食品産業、都市型農業、都市計画などに貢献
	獣医学部・研究科	獣医学部は新大学で独立。公立大学かつ関西圏唯一の獣医師養成課程を設置。医学獣医学の連携による感染症対策、食の安全に貢献
	看護学部	看護学部は新大学で独立。高度先進医療を推進し、大阪の健康長寿社会を支えるヘルスケアサポート人材の養成、保健・医療・福祉における革新的な研究の発信
	理学部・研究科	数学から地球科学まで多様な分野での革新的イノベーションを創造する高度な教育研究を実施
	工学部・研究科	土木、建築、海洋、航空、宇宙を含む工学のフルラインナップで教育研究を实践
	法学部・研究科	5年一貫教育で司法試験にチャレンジできる法曹養成コースを設置
	医学部、生活科学部	高度先進医療を推進し、大阪の健康長寿社会を支えるヘルスケアサポート人材の養成、保健・医療・福祉における革新的な研究の発信

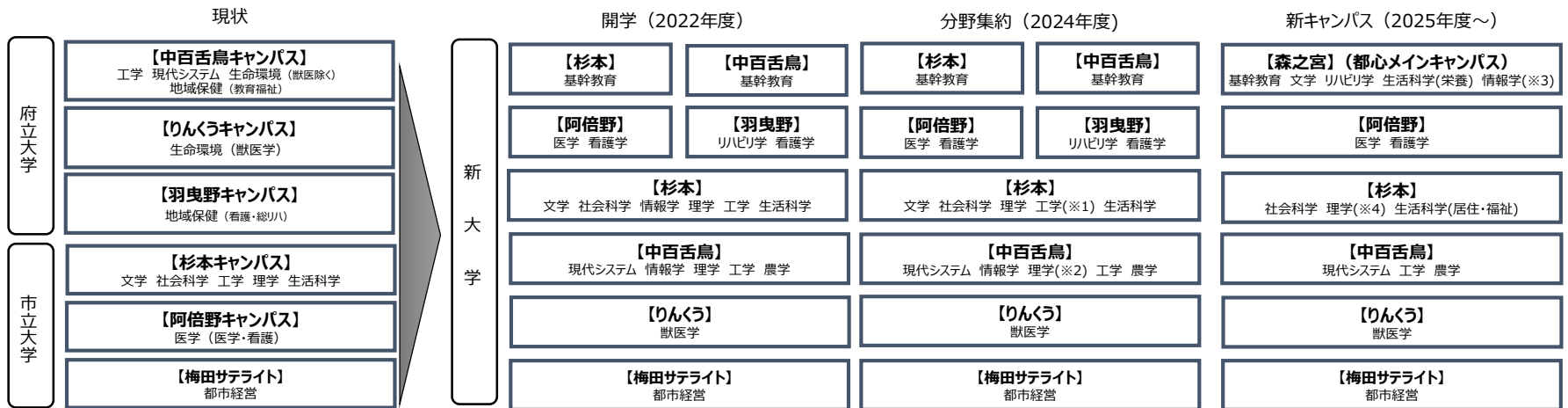
2. 新大学のキャンパスの整備

キャンパス整備の方針

- 新大学では、2025年度を目途に都心メインキャンパスを森之宮に整備するとともに、同種分野で集約化を行う学部（工学部、理学部、看護学部）については、同一キャンパスで教育を行う必要があることから、キャンパスの集約化を優先的に進める。
 - 工学部 ⇒ 中百舌鳥キャンパスに集約
 - 理学部 ⇒ 杉本キャンパスに集約
 - 看護学部 ⇒ 阿倍野キャンパスに集約
- 都心メインキャンパスには、全学の学生が一堂に集う基幹教育とともに、大阪の都市課題の解決や成長に貢献していくために必要な機能（都市シンクタンク機能や技術インキュベーション機能の拠点）のほか、森之宮キャンパスに必要なものについて配置する。
- なお、都心メインキャンパスの整備にあたっては、費用負担軽減に向けて民間活用の検討を行う。検討の結果、適用可能なものについては、民間活用を行う。

課題

- 候補用地の環境整備や新学舎の建設、既存学舎からの移転等、新キャンパス整備に伴う相当額の投資については、合理的な範囲で可能な限り圧縮する努力をする。（※整備対象や建設工法、事業費、財源等については引き続き検討）
- キャンパス整備が段階的とならざるを得ないが、完成までの間、教員・学生の教育研究に影響がでないよう対策を講じる。



(※1、2) 工学の一部については、2027年度に中百舌鳥へ、理学の一部については、2026年度に杉本への移転を予定
 (※3) 情報学の一部は、中百舌鳥に存置。
 (※4) 理学の一部は、中百舌鳥に存置。